

赤十字 NEWS

http://www.jrc.or.jp

JANUARY 2019
NO.944

1

平成31年1月1日(毎月1日発行)
赤十字新聞 第944号
昭和24年9月30日 第三種郵便物認可

「はたちの献血」新キャンペーンキャラクター
乃木坂46
齋藤飛鳥さん、星野みなみさん、
堀未央奈さん、山下美月さん、
与田祐希さんに決定!

CONTENTS

FEATURE_2・3

家族の知らなかった「献血」
誰かの中で
君は生きている

TOPICS_4・5

近衛忠輝日赤社長 年頭のご挨拶
「ボランティアと共に
躍進の年へ」

はたちの献血
乃木坂46

ドキドキ体験!
みんなのボランティア
「献血ボランティア」(東京都)

AREA NEWS_6・7

大阪/新潟/静岡/島根/
香川/全国/兵庫/群馬

Column

[健康豆知識]
皮脂欠乏性湿疹

WORLD NEWS_8

赤十字国際委員会マウラー総裁
日本への新年メッセージ

1枚の写真から(インドネシア)



赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 広報室
〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3
TEL: 03-3438-1311
一部20円
赤十字新聞の購読料は会費に含まれています。

あなたがいなければ、つくりえないもの。



それはあなたがいなければ、
つくりえないもの。
涙を、笑顔にするもの。
いのちどこころに届くもの。
いまこの国では、
10代20代の献血者が減少しています。
血液はまだ、
人工的につくることはできません。
献血へのご協力をお願いします。

生きる、のいつもそばに。

はたちの献血

「はたちの献血」キャンペーン
オリジナルグッズ
プレゼント

オリジナルクリアファイル
15,000円
オリジナル献血カードケース
15,000円

期間:平成31年1月1日~2月28日



人間を救うのは、人間だ。

人間を救うのは、人間だ。



※今月号の表紙は「はたちの献血」キャンペーンポスターです。詳しくは、5面TOPICSをご覧ください。

誰かの中で君は生きている

家族の知らなかった「献血」

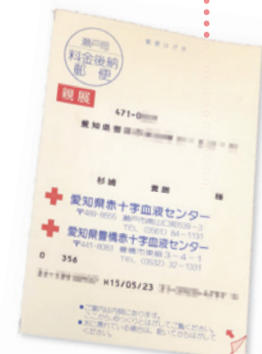


15年間通い続ける「豊田献血ルーム」で献血をする杉浦章正さん。献血ルームの職員とも顔なじみ

月に2回の献血を習慣にしている、愛知県豊田市の杉浦章正さん(62)。献血できる年齢の上限は69歳、それまでに、より多くの人に献血の意義を伝え、継承していきたいと願うようになりました。杉浦さんが献血に通うようになったのは、息子・貴朗さんの影響です。15年前、学校の先生を目指して愛知教育大学に通っていた貴朗さんは、交通事故で突然この世を去りました。二十歳の誕生日を迎えた、約1カ月後のことでした。杉浦さんは、貴朗さんが亡くなる直前まで頻繁に献血していたことを知って、それから15年間、月に2回の献血を続けています。今回、貴朗さんの遺志を継いで献血を続ける想いを、貴朗さんへのメッセージという形で語っていただきました。

「貴朗。君が月2回のペースで献血に通っているのを私たち家族が知ったのは、君が亡くなった後だ。事故の1週間前に、献血をしたね。その検査の結果を知らせるはがきが、事故の後に届いた。はがきを見て、私たちが感じたのは、君の血液が、誰かの中で生きている、誰かの命を生かすために、君の血が役に立っている、ということだった。

あの事故の後、私たち家族は、耐えきれないほどの喪失感に襲われた。お母さんもお姉ちゃんも苦しんだ、そして僕も、どう生きればいいのか分からないほどだった。だから僕は、君が生きている証しを探そうと16年ぶり



貴朗さんが亡くなった後に届いたはがき。献血後2週間ほどで自宅に送られる

献血コード

氏名 杉浦 貴朗 (男)

住所 豊田県豊田市...

献血回数 10回

回数	年月日	血液センター	備考
1	15.4.12.30	愛知血小販	
2	15.5.1.19	愛知血小販	
3	15.5.2.23	愛知血小販	
4	15.5.3.13	愛知血小販	
5	15.5.8.28	愛知血小販	
6	15.4.12	愛知血小販	
7	15.5.4	愛知血小販	
8	15.5.23	愛知400	
9			
10			

(上) 貴朗さんの献血記録。最後の献血はH15年5月23日
(右) 章正さんの献血記録。貴朗さんの死後2ヶ月後に、16年ぶりの献血

献血コード

氏名 杉浦 章正 (男)

住所 豊田県豊田市...

献血回数 10回

回数	年月日	血液センター	備考
1	15.7.28	愛知400	
2	15.9.20	愛知血小販	
3	15.10.4	愛知血小販	
4	15.10.18	愛知血小販	
5	15.11.1	愛知血小販	
6	15.11.16	愛知血小販	
7	15.11.29	愛知血小販	
8	15.12.13	愛知血小販	
9	15.12.27	愛知血小販	
10			

なぜ君は、そんなにも献血を続けたのだろう...



章正さんの献血の記録である「検査結果」の通知はがきは、15年分が全て保管され、10センチほどの厚みになった(写真:章正さんの前に置かれた緑色のファイル)。この厚みが息子・貴朗さんの遺志を継いだ父の信念の表れ

に、君の心にあったものが、なんとなく分かってきた気がする。

前を走る車が、ウィンカーも出さずに急に車線変更し、君はその車に追突するのを避けるためにハンドルを切った。裁判官に「無謀な運転で貴朗さんを死に至らしめた被告(運転手)に敵罰を望みますかと尋ねられたとき、僕は、『望みません』とこたえた。君が傷1つつけずに守った人を、僕が傷つけるわけにはいかなかったから。同じように、君が守ろうとしたこと、伝えようとした想いを、大切にしないでいきたいと思ってる。血液を提供して、誰かを救う、誰かを支える、それって素晴らしいことだって、たくさんの人に伝えたいんだ」

に献血ルームに行ってみただ。献血ルームの窓から見える風景、採血中にベッドの上から眺める室内の様子、献血ルームのスタッフの方に掛けられる言葉、その1つ1つを、貴朗も見た景色だ、貴朗もこうして声を掛けられたんだ、そう感じて、できるだけ頻繁に献血ルームに通った。

君が17歳で献血を始めて、20歳の頃には通える最大限の頻度で献血していたのを、残

された献血手帳で知ったよ。そして、君の友人が何人も『貴朗に誘われて献血に行った』と話すのを聞いた。君と親しかったという献血ルームの人が、お線香をあげて家に来てくれたときも、君がいつもたくさん友人を連れて献血に来たと話してくれた。君がなぜ、そんなにも友人を誘い、献血を続けたのか、誰に聞いても分からなかった。たぶんこれから先も本当の理由は分からないかもしれない。でも、君の通った献血ルームに僕も通ううち

受け継がれた献血

故 杉浦 貴朗さんに捧ぐ

貴朗さんを思う、ご家族や友人の15年の思いが伝わる動画です。



動画で見る赤十字活動

<http://www.jrc.or.jp/movie/>



「貴朗に誘われて献血へ。そんな日常がずっと続くと信じていました」



杉浦貴朗さんの友人 加藤大輔さん

高校時代、同じ剣道部で一番一緒にいる時間が長かった僕は、仲間の中で最も貴朗に献血に連れて行かれた人間だと思います。でも実

は、僕は注射が大嫌いで、献血の針が怖くて怖くて... (笑)。それでも毎回、貴朗の熱意に負けて、献血について行きました。貴朗は仲間思いだったし、仲間も貴朗のことが好きだった。葬儀には、平日の昼間にもかかわらず、大きな葬儀場の部屋に入りきらなくらい参加者が来ました。あんないい奴が、突然亡くなってしまふなんて、僕も、皆も、信じられない思いでした。貴朗は(前回の献血から既定の日数がたって)献血できる時期になると、熱心に献血に誘ってくるんです。「あいつ、どうしてあんなに献

血が好きなんだ。仲間内でもそんな疑問がありました。理由を聞いたことがなくて。あれから15年たちますが、彼が生きていたら... きっと何も変わらずに献血に通い続けていたと思います。共に35歳になって、相変わらず熱心に誘われて、「また行くのか〜」なんてばやいて献血へ... そんなふうに、一緒に、年を重ねたかったです。



貴朗さんの眠る墓に花を供える章正さんと加藤さん。貴朗さんの死後、家庭を持った加藤さんは、奥さんや小さなお子さんを連れて墓参りをすることもあるそう

献血がどのように生かされているのか、輸血を受けられた患者さんの声をまとめました。

● 患者さんの声

<http://www.jrc.or.jp/transfusion/voice/>



多くの友人に慕われた貴朗さん。愛知教育大で指導していた清水秀己教授は「彼は皆が嫌がることを自ら買って出る行動派。将来有望で、同期のまとめ役だった。早すぎる彼の逝去が残念でならない」と語りました



TOPICS

謹賀新年

ボランティアと共に 躍進の年へ

日本赤十字社社長 近衛忠輝



2019年。2つの節目と、 名誉総裁への想い…

明けましておめでとうございます。今年、私たちは2つの時代の節目を迎えます。

まずは名誉総裁、皇后陛下のご退位です。「平成」という時代は、阪神・淡路大震災や東日本大震災など、未曾有の自然災害に幾度も襲われた時代でもありました。日本国内で、赤十字の使命や存在意義を厳しく突きつけられる大きな事象が発生するたび、日赤は全国のボランティア・会員と共に、力を合わせて乗り越えて参りました。名誉総裁は、被災された方々にはもちろんのこと、赤十字関係者が災害支援などに臨むことにも御心をお寄せになり、赤十字の活動を支えてくださっています。平成の30年を振り返り、日赤の代表として、心からの敬意と感謝を捧げたく存じます。

さて、もう一つの大切な節目は、今年、国際赤十字・赤新月社連盟が創設100周年を迎えることです。

約100年前、第一次世界大戦が終結し、恒久の平和を目的に「国際連盟」が誕生すると、もっぱら戦争救護を専門としていた



平成30年度の赤十字大会で有功章を授与される名誉総裁

赤十字の不要説が唱えられました。しかし世界各国には負傷者、孤児、貧困、深刻な感染症など戦争の爪痕が凄まじく、平和な世にあっても赤十字が果たす役割があるとして、日赤を含む5カ国の赤十字社が平和時の救護を軸とする連盟設立を提唱し実現したのが始まりです。たとえば大規模災害が発生すると、被災国の赤十字活動を支えるべく、ジュネーブの連盟事務局と各国の赤十字・赤新月社が連携を取り合いながら、長期かつ大規模な救援を展開します。1919年に21カ国で始まった連盟は、災害救護、医療、福祉、血液事業などの活動への理解が深まり、現在は191の国と地域による世界最大の人道支援ネットワークとなりました。「死と苦痛と闘い、尊厳を守る」という赤十字の理念は不変です。次の100年を目指して、連盟と日赤は足並みをそろえ、共に邁進して参ります。

社会の災害対応力・回復力を、 ボランティアと共に「強化」する年

昨年は国内外で災害が頻発した年でした。国内では豪雪被害、火山噴火のほか、6月大阪府北部地震、7月西日本豪雨災害、9月北海道胆振東部地震と続きました。災害級といわれた夏の酷暑も記憶に新しいところです。

このような災害発生に対応すべく日赤は全国に救護班487班(8740人)を配備しており、昨年の災害発生時には165班を派遣、医療救護活動などを行いました。

また、防災・減災活動では、独自に開発した「赤十字防災セミナー」を全国で実施、約3万人近い方々にご参加いただく啓発活



日赤本社の災害訓練中、対策本部での近衛社長

動に発展させることができました。

この他にも、赤十字救急法の講習や、青少年赤十字活動(加盟校1万4127校)、高齢者支援など、地域のニーズに応じた活動を行いました。こうした赤十字の活動は全国125万人以上の赤十字奉仕団をはじめとするボランティアに支えられています。

150年前のイタリアでの紛争下、傷を負って倒れている兵士たちを、村人たちと共にボランティアで救護したアンリ・デュナンの提唱によって赤十字運動は始まりました。日本においても140年前の西南戦争で敵味方なく救護するために奔走した博愛社の創設メンバーもボランティアでした。2017年、国際赤十字・赤新月社連盟ではボランティアの権利と責任を明らかにした「ボランティア憲章」が採択されました。その憲章には『ボランティアこそ、赤十字・赤新月そのもの』と謳われています。

2019年も、ボランティア、そしてご支援くださる皆さまと共に、自然災害や日本社会が抱える多くの課題に、力強く立ち向かって参りたいと考えております。今後共、引き続きご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

TOPICS

乃木坂46が「献血のことを知ってもらいたい…」 はたちのメンバーを中心に、静かに語り掛けます



左から堀未央奈さん、山下美月さん、齋藤飛鳥さん、与田祐希さん、星野みなみさん

「はたちの献血」キャンペーン(1月1日～2月28日)が今年も始まります。「あなたがいないと、つくりたいもの。」というメッセージを優しく呼び掛けるのは、新キャンペーンキャラクターに就任した大人気アイドルグループ、乃木坂46の5人。新成人を中心に献血への理解と協力を広げるため、20歳の齋藤飛鳥さんをはじめとする同世代の注目メンバーが集結しました。

「献血とアイドルは似ている」と語るのは18歳の与田祐希さん。「自分たちの活動を見て『元気になったよ』と言ってもらえるとうれしい。『人の力になる』という部分では献血も同じですね」。さらに、星野みなみさんは「乃木坂は私たちと同世代のファンも多いので、無関係ではないんだよ、もう献血できる年齢なんだよと発信していきたい」と語ります。

冬は献血者が減少しがちで、患者さんが

必要としている血液製剤の安定供給が大きな課題です。齋藤さんは「私ひとりの力で患者さんたちを救うことは難しくても、献血を通じて少しでも助けになれば」と力強いメッセージをくれました。彼女たちの笑顔とともに、献血の応援活動を全国で行っていきます。



「はたちの献血」webサイト公開中!

CHECK! <https://ken-love.jp/hatachi/>

「はたちの献血」キャンペーンキャラクターを務める乃木坂46の5人が登場する、このサイト限定のオリジナルムービーや、アドギャラリーなどを公開しています。ぜひご覧ください!



ドキドキ体験! みんなのボランティア vol.7

* 南犬血ボランティア *

at 東京都内の献血ルーム



献血ルームは明るく、カフェのような雰囲気。スタッフの丁寧な説明で、初めてでも安心です。

献血後は10分以上休憩をして、体調を見てから終了。たくさん種類がある飲み物はすべて無料、置いてある雑誌やコミックは自由に読めます。

※献血は2種類あります。全血献血=400mL献血と200mL献血があり、血液中のすべての成分を採血
成分献血=血小板成分献血と血漿(けっしょう)成分献血があり、特定の成分だけを採血



献血ルームってどんなところ? / 都内献血ルームの様子を3Dで見られます。

健康に感謝。40分の献血で社会貢献ができる!

献血は人の命に直結するボランティア。日本国内では病気などで1日約3000人が輸血を必要としているそうです。今回、初めて献血に行ってきました。緊張しながら受け付けると、やさしいスタッフがスムーズに手続きを進めてくれます。受け付けから事前検査→採血→休憩時間まで入れて、かかった時間は約40分*、針を刺している時間はわずか15分程度でした。難しいことは1つもなくルームの雰囲気にも慣れてすっかりリラックス。献血で誰かを助けられるのは健康だから。自分の健康にあらためて感謝し、定期的に行こうと思えるボランティア体験でした。 *400mL全血献血の場合

お近くの献血会場はこちら

jrc.or.jp/donation/



献血は全国の血液センター、献血ルーム、献血バスで受け付けています。詳細はホームページをご覧ください。

こんにちは。40代の主婦、あいかとうこ 赤井十子です! 子育てがいち段落してできた時間を活用して、困っている人や地域の役に立つ方法を探しています。

AREA NEWS

全国各地、あなたの生活のすぐそばで、日本赤十字社の活動は行われています。

大阪府

日赤大阪府支部が創設130周年！約900人参加で盛大な赤十字大会に

創設130周年という節目を迎えた大阪府支部は、11月26日に赤十字大会を開催。名誉副総裁・高円宮妃殿下のご臨席のもと各種の授章・表彰が執り行なわれました。式典では37年間にわたって赤十字ボランティアとして活躍した本村仁氏が、大阪府北部地震での災害ボランティアセンターの運営支援の様子などを報告。また、大阪赤十字看護専門学校の学生による合唱も披露され式典により一層の華を添えました。



さらなる発展に向け、支援の機運が高まる様子が会場内にあふれました

新潟県

“SNS映え”するデザインが大反響！献血者に手作り「焼きドーナツ」配布

「献血ルームばんだい ゆとりろ」では、けんけつちゃんのドーナツをプレゼントする特別企画を実施しました。11月26日～12月9日に献血に協力してくれた10～30代の方を対象に配布したもので、製菓を学ぶ「いがた食育・保育専門学校えぶるん」の学生による手作り。油で揚げずオープンで焼いたドーナツはカロリー控えめ、個性的なデザインも「すごくかわいい」と大好評でした。



「一人でも多くの方が献血してくれたら」と製作した専門学校生

全国

“NHK海外たすけあいキャンペーン”全国の皆様のご協力に感謝致します

毎年恒例となっている「NHK海外たすけあいキャンペーン」の街頭募金が各地で実施されました。日赤とNHKが共同で実施するこのキャンペーンは、これまでに世界155の国と地域へ支援を届けてきました。今年は60の国と地域の人々を支援するため、全国各地で赤十字奉仕団が募金を呼びかけ、紛争や災害などで苦しむ世界の人々への温かい支援を募りました。



岡山でポスターやのぼりを手に街頭に立つ青少年赤十字メンバー



名古屋駅前にはグランパスくんが駆けつけました！



日赤の職員も街頭で募金への協力を呼びかけました

静岡県

島根県

未来を担う若者たちが国際交流世界のJRCメンバーが各地の支部を訪問

青少年赤十字(JRC)では、実践目標の1つである「国際理解・親善」の一環として国際交流事業を推進中。JRC活動に取り組む20カ国の若者を日赤16支部が受け入れました。



東ティモールのメンバーは「素晴らしい経験だった！」と終始笑顔

11月17～22日には、東ティモール青少年赤十字メンバーが静岡県支部を訪問。「社会における青少年赤十字メンバーの役割を考える」という今回の交流事業のテーマのもと、献血ルームなどの施設見学や、折り紙や藍染めといった日本文化を体験し、お互いに理解を深めながら、自国の文化や課題を見つめ直しました。また、島根県支部ではインドネシアの高校生2人を受け入れました。母国で2000人以上が死亡する地震と津波が9月に発生し、彼らも赤十字のボランティアとして活動。日本滞在中、支部による災害時高齢者生活支援講習に参加し、災害時の支援について学びました。



JRC加盟校で体験した茶道の味わいに、思わず「すごい！」という表情

香川県

南海トラフ地震や大きな事故など災害に対する準備を万全に！

全国の日赤支部は災害に備えて日頃からさまざまな訓練に取り組んでいます。香川県支部は10月28日、南海トラフ地震を想定した「総合防災訓練」で、国内型緊急対応ユニット(dERU)を設営。また、11月13日の「石油コンビナート総合防災訓練」では救護班が災害発生直後の対応方法などを確認しました。同支部は8月4日にも政府主体の「大規模地震時医療活動訓練」に参加、各所との連携を深めています。



dERU救護所内にてトリアージを行う救護看護師

群馬県

これからの日本に必要な人材とは？JRC経験者が実体験をもとに報告

11月27日、教育関係者向けの青少年赤十字(JRC)研修会が日赤群馬県支部により開催され、約320人(県内学校の6割)の校長先生方が参加。講師は内閣府から「地域活性化伝道師」として認定された大宮透さん。高校時代、群馬県JRCの学生役員だった大宮さんは「学校を超えた活動に多くの学びがあり、視野が広がった。JRCはこれからの人材育成に必要」と赤十字と教育の連携を評価しました。



「JRCは主体性を育む活動なのだ」と実感した」と聴講者

兵庫県

伝えよう！献血の大切さ 子ども400人が献血イベントでダンス

12月1日、約400人の子どもたちによるダンス発表や親子で献血を模擬体験する「キッズ献血」などを通じて献血の大切さを伝えるイベント「VIVA！けんけつ」が開催されました。10～30代の献血者数がこの10年で35%も減少していることから、若い世代に献血への関心を持ってもらうことを目的に、兵庫県の血液センターとライオンズクラブが共同で企画。出演アーティストらも献血を呼び掛けました。



ボランティアのサポートで子どもたちが献血を模擬体験

常任理事会開催報告

平成30年12月20日、本社において平成30年度第8回の常任理事会が開催されました。今回の常任理事会では、付議事項はありませんでしたが、アジア・大洋州地域における救急法等普及支援活動および予算の補正にかかる社長専決事項等について、それぞれ報告しました。

天皇皇后両陛下から御下賜金

12月19日、天皇皇后両陛下から、日本赤十字社の事業奨励のために金一封を賜りました。この御下賜金は、災害等による被災者救済事業のための資金として有効に使用されます。

present プレゼント

ライトが当たると反射するキーホルダーと防犯ホイッスルがセットに！

ハートラちゃんホイッスルチャーム (大阪府支部創設130周年記念品)

30名さまに



大阪府支部では、10月に開催し好評を博した国際人道法講座を3月23日(土)にも開催予定。詳しくは、大阪府支部(06-6943-0705)まで。

希望者は、以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールでご応募ください。

- ①お名前(匿名をご希望の方は、その旨もご記入ください)
- ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢
- ⑤赤十字NEWS 1月号を手にした場所(例/献血ルーム)
- ⑥1月号で良かった記事、興味深かった記事はどれですか？(いくつでも)
 - A.表紙 B.誰かの中で君は生きている
 - C.社長新年挨拶
 - D.はたちの献血
 - E.みんなのボランティア
 - F.エリアニュース
 - G.健康豆知識 H.プレゼント
 - I.ワールドニュース J.1枚の写真から
 - ⑦赤十字NEWSのご感想、扱ってほしいテーマ、その他 Voice(読者の声)への投稿もお待ちしております。

郵送/〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社 広報室 赤十字NEWS 1月号プレゼント係 FAX / 03-6679-0785 メール/ kaho@jrc.or.jp (件名「赤十字NEWS 1月号プレゼント係」) 1月31日(木)必着 ※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます

「知って良かった!健康豆知識」は切り取って保存していただけます

日赤のドクター&ナースが教える 知って良かった!

健康豆知識



かゆ その痒み、ただの「乾燥肌」ではないかも!?

横浜市立みなと赤十字病院 皮膚科部長 渡邊 憲 (わたなべ けん) 神奈川県横浜市中区新山下3丁目12-1 TEL: 045-628-6100

肌がガサガサ、赤くなってとにかく痒い…。いわゆる湿疹と呼ばれる症状が見られたら、それは乾燥肌を通り越し、「皮脂欠乏性湿疹」かもしれません。

一般的に皮膚の乾燥は、洗い方、暖房や服装の注意、保湿剤を使用するなどの生活習慣で予防や改善が可能です。しかし、乾燥して痒みが止められず、無意識に掻きむしっていたり、掻き過ぎて炎症を起こしていたり、となると、保湿などの乾燥対策だけで症状を改善することは困難です。痒さに我慢できず掻く行為を繰り返していると、皮膚の痒みを感じる神経が発達します。その上、掻くことでその場所に炎症が起き、それによっても痛みや痒みが生じます。つまり「痒く

て掻く⇒さらに痒みを感じるようになって掻く⇒炎症が起きて掻く!」……終わりのない悪循環を断ち切るには、まずは痒みを止めること。薬局で購入できる「抗ヒスタミン剤」なども痒み止めとして有効です。炎症が進みすぎているときは、炎症を抑えることを最優先にし、皮膚科で処方されるステロイドの使用も有効です。

軽度の乾燥肌も、「皮脂欠乏性湿疹」も、皮脂不足、潤い不足から始まります。それらを奪う洗浄剤(石鹸、ボディソープ、シャンプーなど)の使いすぎ、ゴシゴシと摩擦する洗い方、乾燥する環境など、皮脂・潤いが不足する要因がないか、生活全体を見直しましょう。



【肌の乾燥が進まない洗い方】ゴシゴシすらない!しっかりと泡立てて肌に直接触れないように洗い、すぐに水で流します。乾燥した箇所は、ぬるま湯で洗うだけでOK。

file. 52

～遺言による寄付～ 未来への思い、「遺贈」で残せます。

「遺贈」とは、遺言によって自分の財産を特定の個人や団体に贈ること。この遺言による相続は、民法が定める法定相続の規定よりも優先され、遺産の受取人やその内容を指定することができます。この方法で、財産の全部もしくは一部の受取人として日赤を指定していただくことができます。日赤は皆さまの大切なご遺志を、災害時の救助活動や地域の防災活動、国際支援を通じて、苦しんでいる人のために役立てます。

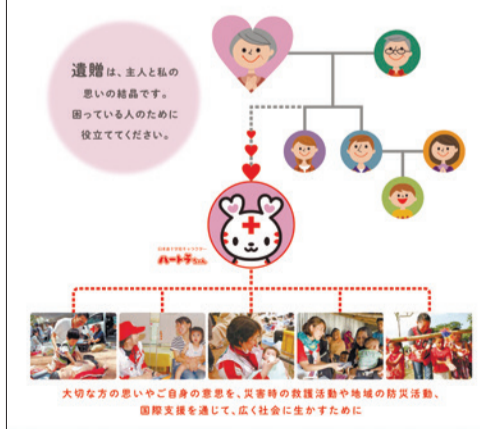
1月7日から3月4日まで、全国にある1万1100の郵便局で、遺贈・相続財産寄付のご案内ポスターが掲出されます。

詳細・問い合わせは日赤のウェブサイトをご確認ください。

赤十字 遺贈 検索

郵便局でもポスターでお知らせ!

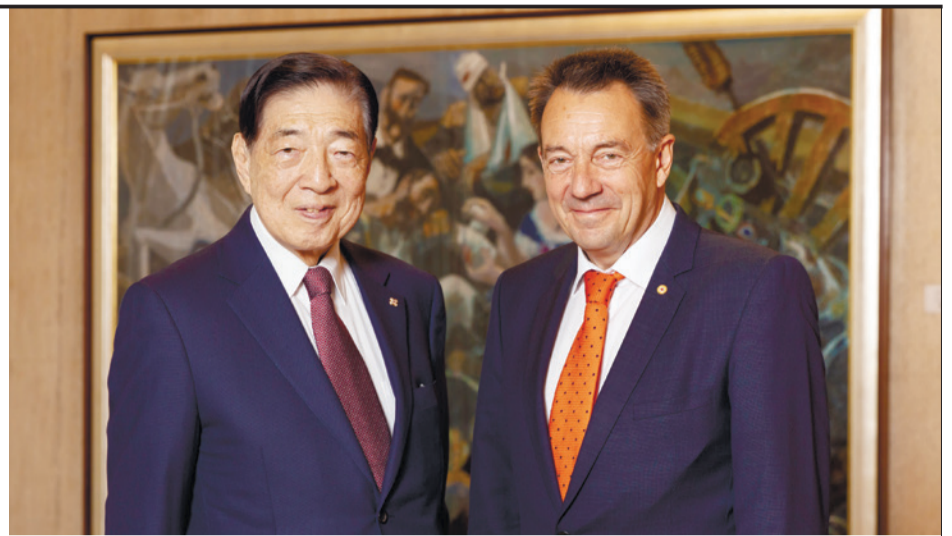
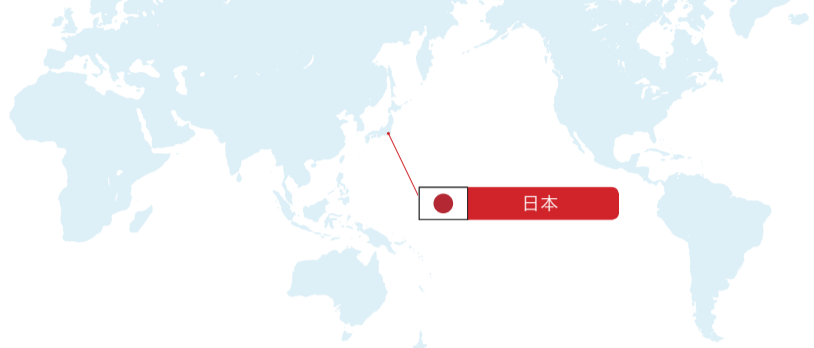
赤十字でつなぐ、わたしの思い。



遺贈 相続財産寄付 詳細はウェブサイトでご確認ください。TEL: 03-3437-7082

WORLD NEWS

ICRC総裁からの新年メッセージ



日赤を表敬訪問したマウラー-ICRC総裁と近衛社長

力を合わせ、同じ目的に向かう日赤に 赤十字国際委員会マウラー総裁が感謝

赤十字国際委員会(ICRC)のペーター・マウラー総裁が昨年11月下旬に来日し、日赤の近衛社長と会談しました。新しい年の始まりに際し、マウラー総裁が赤十字NEWSの読者にメッセージを寄せました。

日赤の人道支援を高く評価 マウラー総裁が日本へ寄せる熱い期待

「新しい年が始まりました。これまでに日赤を支援し、共に赤十字の人道支援に参加して下さった皆さんに感謝申し上げます。ICRCは昨年、今後4年にわたる組織戦略を発表しました。暴力や不法行為、排他的風潮、気候変動の影響などが広がる中において、①紛争・暴力下のコミュニティとの関係の再構築、②国際人道法を普及することによる民間人への被害予防と保護への注力、③長期化する紛争への対応 ④デジタル化への対応、以上4項目です。こうした戦略を基に、複雑化して

安易に解決策が見つけれない昨今の人道課題に全力で取り組んでいきます。日本は世界に向けて多くのことを提供できる立場にあり、また、戦争や暴力に直面している何百万の人々に大きな変化をもたらすことができると信じています。どうぞ私たちと一緒に戦略の実現に協力してください」

「アジアの若者には、苦しむ人々に 温かい眼差しを向けてほしい」

4度目の来日を果たしたマウラー総裁は、来日中の11月20日に早稲田大学から名誉博士号が贈呈されました。その記念講演会の席で「イエメンやシリアなどの紛争地では人々が



Photographer: SHERKHAN, Ibrahim ©ICRC
イラクの国内避難民である未亡人の話に耳を傾けるマウラー総裁

絶望的な状況に直面していますが、彼らや地域社会が持つ“立て直す力(レジリエンス)”によって希望が生まれています。それを尊重し、共に人道支援に取り組もうではありませんか」と呼び掛けました。そして、参加した学生たちへ「どうしたらアジアの若者がもっと世界の人道問題に関心を持ってくれるのか。戦争や暴力の犠牲となっている人たちのためにもあなたたちのアイデアを歓迎します」と熱く語り掛け、会場は拍手に包まれました。

ICRCの主な役割は、武力紛争やその他暴力を伴う状況下で犠牲を強いられている人々の生命と尊厳を保護し、必要な支援を提供し、また、国際人道法を普及させることです。他方IFRCは、各国赤十字・赤新月社の連合体として、自然・人的災害や難民、保健分野の活動で指揮・調整を行います。赤十字運動は世界最大の人道支援ネットワークであり、ICRCとIFRC、そして国内医療、自然災害時の支援などを行う日赤などの各国赤十字・赤新月社、この3つの機関が密に連携し、人道支援活動を行っています。



サタさん(写真右)と母親が再会を果たした瞬間

©IFRC

1枚の写真から picture tells stories

母親と再会し、^{あんど}安堵の涙を流すボランティア

ボランティアの1人、サタさんは、インドネシア・スラウェシ島地震発災後1週間、離れ離れになった家族を捜し、引き合わせる赤十字の活動に奔走していました。しかし、彼自身も両親が行方不明。他の人の家族を捜す活動しながら自分の家族の消息を調べ、諦めかけていたとき、一緒に捜してくれていた友人がついにサタさんの両親を見つけだし、サタさんのもとに連れてきてくれました。「両親が生きていた、その喜びで胸がいっぱいです。家族を捜している人々にこの幸福を届けられるように、ボランティア活動を頑張ります」母親の肩を抱き、サタさんは涙ながらに語りました。